View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

羽陽学園短期大学紀要　第８巻　第４号（通巻30号）2010年２月
Bull. of Uyo Gakuen College, Vol.8, No.4, February 2010

保育者養成課程における園外保育共同実践型授業の検討

太　田　裕　子　幼児教育科
髙　桑　秀　郎　幼児教育科

（2009年10月１日受理）

〔　要　　約　〕

27名の短大生を対象とした園外保育共同実践型授業が、短大生の学習にどのような影響を持つのかを検討した。当該授業では、短大生が数名ずつのグループを作りそのメンバーが共同で幼児の園外保育活動の計画立案、実践を行った。その結果、実践前と比較して実践後の方が、学生が共同保育活動の経験から学ぶことがある、園外保育活動の経験から学ぶことがあると考えるようになった。また、共同保育活動、園外保育活動の楽しさ、大変さ、両活動の経験から学ぶことについての具体的な記述が増加したことから、園外保育共同実践型授業の実施により、保育を学ぶ学生の、共同保育活動や園外保育活動を実践する際の重要事項についてのより具体的、より明確な考慮が促進されたと考えられた。

問題と目的

幼稚園教育要領[1)]、保育所保育指針[2)]が平成20年度に改訂され、今年度から施行された。今次の改訂により、保育者には一段と幅広い資質が求められることとなり、子どもの最善の利益を守ることを大前提に、子ども理解、教育課程あるいは保育課程、指導計画の作成、保護者支援をはじめとする様々な業務に当たることが必要とされている。そしてその業務に対応していくためには、教えられたことをそのまま暗記し、会得した知識をそのまま再生するだけでは不十分である。学んだ知識、技術をはじめ、自分の持てる力を駆使し、様々な対象、様々な環境における保育を組み立て、調整しながら実践していく必要がある。幼稚園教諭、保育士の養成を主とする短期大学で学ぶ学生は２年間の教育を受けた後、現場で保育者としての業務につき、その幅広い仕事内容と向き合うことになる。各養成校での教育は講義、演習、実習等と多岐に亘るものであり、免許状、資格取得にあたっての知識、技術等を習得するためのカリキュラムが組まれているが、そのカリキュラム自体も、保育者に求められる資質、対象とする学生の特性に合わせて改善されていくべきものであろう。そのような中、それぞれの保育者養成課程において、特色ある授業、取り組みが実践され、検討されている。例えば、塚本[3)]は、グループで保育内容を立案し、学生同士の模擬授業の後附属幼稚園で実践を行うという授業を行っている。その結果、よそとは違った子ども達の反応に戸惑いながらも学生達は改善点を見いだし、次につなげていけるような反省の声が聞かれたという。また、松本ら[4)]は、保育者養成校内に遠足にやってくる幼児の園外保育場面に学生を参加させ、幼児の遊びに参加したり見守ったりする時間を設けた。学生達は、その経験を通して、幼児が環境に主体的に関わって活動を展開する実際の姿に接し、幼児期の特性や発達の違いを体験的に学ぶことができたという。本学においても、例えば教育実習、保育実習において二年次の実習では責任実習、全日実習を行うなどして、学生はそれまでの短大での学習内容を総合して実践に臨む経験を積んでいる。しかし、前述のような広範囲に亘る仕事を求められる保育者の養成にあたっては、理論と実践との往還的関係に接することのできる機会を数多く設定していくことが望ましいといえよう。そこで、本学附属幼稚園との連携のもとに、附属幼稚園の園児に本学を訪れてもらい、複数名でチームを組んだ本学学生が、その園児を対象とした保育活動内容を決定し日案作成、諸準備、保育実践を行う授業を行うこととした。幼児にとっては普段園生活を送る場から離れての園外保育ということになることから、この授業を園外保育共同実践型授業と呼び、その授業が学生の学習にどのような影響を持つのかを検討する。複数名からなるグループ単位での共同保育活動、園外保育活動に主導的な立場で関わることは学生にとっては初めての経験となることから、それぞれの活動から学びとることには様々なものがあると期待される。このことから、園外保育共同実践型授業を実施することにより、実施前から実施後にかけて、学生は、共同保育活動、園外保育活動からより多くのことを学

べると考えられるようになると思われる。また、自分達が計画立案、実践を行う保育活動に参加する子ども達に間近に接することが出来ることから、当該保育活動から「子どもが得るもの」についてのより具体的な把握が可能になることが期待される。その予想を確かめ、さらに園外保育実践型授業の学生の学習への影響を検討することを目的とする。

方法

１．対 象 者　羽陽学園短期大学２年生27名

２．授業期間　平成20年10月～平成21年２月

３．授業計画

授業は、各回90分の全15回で構成されている。授業履修者27名を９名ずつのグループに分け、各グループが、授業期間のうち、平成20年12月９日、12月16日、平成21年２月10日のいずれか１回の担当となり、短大を訪れる幼稚園児が参加する保育活動の計画、準備、実践を行う。その３回の保育実践日以外の授業日には、保育実践の為の計画立案、諸準備、各実践の反省を行う。

４．調査計画

保育実践前の準備期間である平成20年11月に事前調査を、全てのグループが保育実践を実施した後の平成21年２月に事後調査を行った。事前調査、事後調査とも、各対象者のペースでアンケート用紙に回答することが求められた。回答に要した時間は、20分間であった。

５．アンケート用紙の内容

事前調査、事後調査で回答を求められたアンケート用紙の内容は、以下のようなものである。尚、事前調査と事後調査では、回答時期が異なるため、アンケート質問文の表現に相違点がある。事前調査のアンケート調査で用いた質問文をカッコ内に示す。

この授業を受けて（現段階で）思ったこと、感じたことを書いて下さい。

１．あなたの希望する職業の分野は、次のうちどれですか？　ひとつ選んで下さい。

１　保育職　　２　介護職

３　その他（どのような分野ですか？　　）

２．この授業では、グループ単位での保育活動の企画、立案、実践を行いました(行います)。

２－１．グループ単位での共同活動は、楽しかったですか(楽しいですか)？

とても楽しかった	少し楽しかった	どちらでもない	あまり楽しくなかった	全然楽しくなかった
5	4	3	2	1

２－２．上の数字を選んだのはどうしてですか？その理由を書いて下さい。

２－３．グループ単位での共同活動を経験した(経験する)ことは、就職先の現場で役に立つと思いますか？

とても役立つ	少しは役立つ	どちらでもない	あまり役立たない	全然役立たない
5	4	3	2	1

２－４．上の数字を選んだのはどうしてですか？その理由を書いて下さい。

２－５．グループ単位での共同活動を経験することで、学べることがあった(ある)と思いますか？

とてもあった	少しはあった	どちらでもない	あまりなかった	全然なかった
5	4	3	2	1

◆５と４を選んだ方にお聞きします。どのようなことが学べた(学べる)と思いますか？

◆３と２と１を選んだ方にお聞きします。上の数字を選んだのはどうしてですか？

２－６．グループ単位での共同活動を行うことで、大変だなと思うことはありました(あります)か？

とてもあった	少しはあった	どちらでもない	あまりなかった	全然なかった
5	4	3	2	1

◆５と４を選んだ方にお聞きします。大変だなと思った（思う）ことはどのようなことですか？

◆３と２と１を選んだ方にお聞きします。上の数字を選んだのはどうしてですか？

３．この授業では、本学において年中児の保育を行いました(行います)が、これは、子どもにとっては「園外保育」ということになります。

３－１．「園外保育」の企画、立案は、楽しかった(楽しい)ですか？

とても楽しかった	少し楽しかった	どちらでもない	あまり楽しくなかった	全然楽しくなかった
5	4	3	2	1

３－２．上の数字を選んだのはどうしてですか？その理由を書いて下さい。

３－３．「園外保育」の企画、立案、実践を経験した(経験する)ことは、就職先の現場で役に立つと思いますか？

とても役立つ	少しは役立つ	どちらでもない	あまり役立たない	全然役立たない
5	4	3	2	1

３－４．上の数字を選んだのはどうしてですか？その理由を書いて下さい。

３－５．「園外保育」の企画、立案、実践を経験することで、学べた(学べる)ことがあると思いますか？

とてもあった	少しはあった	どちらでもない	あまりなかった	全然なかった
5	4	3	2	1

◆５と４を選んだ方にお聞きします。どのようなこ

とが学べた(学べる)と思いますか？

◆３と２と１を選んだ方にお聞きします。上の数字を選んだのはどうしてですか？

３－６．「園外保育」の企画、立案、実践を行うにあたって大変だなと思った(思う)ことはありますか？

とてもあった	少しはあった	どちらでもない	あまりなかった	全然なかった
５	４	３	２	１

◆５と４を選んだ方にお聞きします。大変だなと思った(思う)ことはどのようなことですか？

◆３と２と１を選んだ方にお聞きします。上の数字を選んだのはどうしてですか？

３－７．今回の「園外保育」で子どもたちにとって得るものがあった(ある)としたら、それはどのようなものだと思いますか？

以上の事前調査と事後調査における、共同保育活動、園外保育活動についての質問は、それぞれについての「楽しさ」、「有用度」、「学び」、「大変さ」について問われるものであることから、２－１、２－２、３－１、３－２を「楽しさ」質問項目、２－３、２－４、３－３、３－４ を「有用度」質問項目、２－５、３－５を「学び」質問項目、２－６、３－６を「大変さ」質問項目、３－７を「子どもが得るもの」質問項目とする。

６．仮説

⑴共同保育活動の「学び」質問項目における事後評定値が、事前評定値より高くなるだろう。

⑵園外保育活動の「学び」質問項目における事後評定値が、事前評定値より高くなるだろう。

⑶事前調査から事後調査にかけて、「子どもが得るもの」質問項目の記述において、具体的な記述が増加するだろう。

結果と考察

アンケート用紙の各質問項目に対する回答の、事前調査から事後調査へかけての変化を見ていく。

１．共同保育活動についての意識

共同保育活動に対する質問項目評定値の平均、標準偏差、検定結果をTable 1 に示す。尚、事前調査と事後調査との評定値の差についての検定には t 検定を用い、５％水準を基準として有意差があるものとした。

Table 1　共同保育活動質問項目評定値の平均（標準偏差）と検定結果

質問項目	事前調査		事後調査		t 値
	MEAN	*SD*	*MEAN*	*SD*	
楽しさ	4.30	0.76	4.33	0.68	1.44
有用度	4.74	0.45	4.85	0.36	1.80
学び	4.63	0.56	4.78	0.42	2.13*
大変さ	4.00	0.88	4.30	0.61	2.30*

$*p<.05$

１－１．「楽しさ」質問項目

Table 1 における結果より、「楽しさ」については事前調査と事後調査の間に有意な評定値差は見られず（$t(26)=1.44, n.s.$）、事前調査から事後調査へかけて、共同保育活動に対する楽しさ評定値には変化が見られないことがわかる。授業の実施前後で、共同保育活動に対して感じる学生の楽しさには、変化が生じないことが示された。自由記述内容はTable 2 の通りである。

Table 2　共同保育活動に対する「楽しさ」質問項目の自由記述内容別人数［名(％)］

自由記述内容	事前	事後
・１人でではなく複数の人たちと話をしながら進められるから	13(48.1)	12(44.4)
・他の人の意見を知ることができるから	1(3.7)	6(22.2)

Table 2 より、「楽しさ」を感じるのは、「１人でなく他の学生と話をしながら作業を進めていけるから」という理由が、事前調査、事後調査とも多いことが分かる。また、事後調査において、「他の人の考えを知ることができるから」という理由を挙げる学生が増えており、共同保育活動の評定値に有意差は認められなかったものの、その理由として挙げる内容には変化が見られる。複数名で活動を進めることの中には、互いに話をすることばかりでなく、授業を通して意見の交換をすることによって、１人で活動する場合には気づかなかった意見、アイデア等に触れる機会があったということに気づいて、その点に楽しさを見い出した学生が増えたものと考えられる。

１－２．「有用度」質問項目

Table 1 における結果より、「有用度」については事前調査と事後調査の間に有意な評定値差は見られず（$t(26)=1.80, n.s.$）、事前調査から事後調査へかけて、共同保育活動に対する有用度評定値には変化が見られないことがわかる。授業の実施前後で、共同保育活動に対して学生の感じる今後の有用度には、変化が生じないことが示された。自由記述の内容はTable 3 の通りである。

Table 3　共同保育活動に対する「有用度」質問項目の自由記述内容と記述者人数［名(%)］

自由記述内容	事前	事後
周りの人との共同作業は社会人になっても経験する事だから	19(70.4)	19(70.4)

Table 3 より、共同保育活動の経験が役に立つと考える理由は、事前調査、事後調査何れにおいても「社会人になってからも同様の経験する事だから」という同一の理由であり、評定値に変化が見られないのと同様に、自由記述内容にも変化が見られないことが分かる。

１－３．「学び」質問項目

Table 1 における結果より、「学び」については事前調査と事後調査の間に有意な評定値差が見られた（$t(26)=2.13, p<.05$）。すなわち、事後調査の「学び」質問項目評定値が事前調査の同評定値よりも有意に高かった。このことから、授業の実施により共同活動について学べると思う気持ちが、実施前のものより高まっていることが示された。このことより、仮説(1)は支持されたといえる。自由記述の内容は、Table 4 の通りである。

Table 4　共同保育活動に対する「学び」質問項目の自由記述内容別人数［名(%)］

自由記述内容	事前	事後
・他の人の意見に耳を傾けること	13(48.1)	12(44.4)
・異なる意見を調整してひとつのものを作り上げること	0(0.0)	5(18.5)
・役割分担の大切さ	0(0.0)	5(18.5)

Table 4 より、共同保育活動の経験により学べることとして「他の人の意見に耳を傾けること」を挙げた学生の数は事前調査、事後調査においてほぼ同数だが、事後調査においては、「異なる意見を調整してひとつのものを作り上げること」、「役割分担の大切さ」といった内容が新たに挙げられた。共同保育活動には、他人の意見を聞くばかりでなく、意見をまとめてひとつの活動を実現化すること、役割分担を明確にして、それぞれが役割を実行することも必要とされることを学んだという点で、事前調査から事後調査にかけて質的な変化のあったことが分かる。

１－４．「大変さ」質問項目

Table 1 における結果より、「大変さ」については事前調査と事後調査の間に有意な評定値差が見られた（$t(26)=2.30, p<.05$）。すなわち、事後調査の「大変さ」質問項目評定値が事前調査の同評定値よりも有意に高かった。このことから、授業の実施により共同活動に対して学生が感じる大変さが、実施前のものより高まっていることが示された。自由記述の内容は Table 5 の通りである。

Table 5　共同保育活動に対する「大変さ」質問項目の自由記述内容別人数［名(%)］

自由記述内容	事前	事後
・様々な意見をまとめること	10(37.0)	12(44.4)
・各人が自分の役割に責任を持つこと	0(0.0)	5(18.5)

Table 5 より、共同保育活動において大変なこととして、事前調査、事後調査ともに「様々な意見をまとめること」が挙げられているが、事後調査の方がそれを挙げる学生数が増加しており、更に「各人が自分の役割に責任を持つこと」という内容が事後調査においてのみ挙げられている。実際に共同保育活動をする中で、共同で行うが故に仕事に対する責任感が希薄になるというマイナス面での影響、留意点に気づくという変化が生じていることが示され、事前調査と比較して事後調査において共同保育活動に対する大変さの度合いが高まったのはこのような気づきがあった為だということが考えられる。

２．園外活動についての意識

園外保育活動に対する質問項目評定値の平均、標準偏差、検定結果をTable 6 に示す。尚、事前調査と事後調査との評定値の差についての検定には t 検定を用い、５％水準を基準として有意差があるものとした。

Table 6　園外質問項目評定値の平均（標準偏差）と検定結果

質問項目	事前調査		事後調査		t 値
	MEAN	*SD*	*MEAN*	*SD*	
楽しさ	4.30	0.72	4.63	0.49	3.61**
有用度	4.67	0.55	4.67	0.48	0.00
学び	4.44	0.58	4.74	0.45	2.53*
大変さ	4.48	0.58	4.78	0.42	2.84**

$^{**}p<.01$, $^{*}p<.05$

２－１．「楽しさ」質問項目

Table 6 における結果より、「楽しさ」については事前調査と事後調査の間に有意な評定値差が見られた（$t(26)=3.61, p<.01$）。すなわち、事後調査の「楽しさ」質問項目評定値が事前調査の同評定値よりも有意に高かった。このことから、授業の実施により園外活動の企画、立案、実施に対して学生が感じる楽しさが、実施前のものより高まっていることが示された。自由記述の内容はTable 7 の通りである。

Table 7　園外保育活動に対する「楽しさ」質問項目の自由記述内容別人数［名(%)］

自由記述内容	事前	事後
・今まで経験したことがなかったから	11(40.7)	2(7.4)
・子どもにとっての楽しい経験を想像できるから	3(11.1)	16(59.3)

Table 7 より、事前調査においては、園外活動を「楽しい」と感じるのは「今まで経験したことがなかったから」と挙げた学生が多く、事後調査においては、「子どもにとっての楽しい経験を想像できるから」と挙げた学生が多かった。授業の実施によって、「楽しさ」を感じる理由として子どもの視点を考慮した理由を挙げた学生が増えていることが分かる。「楽しさ」評定値が事前調査から上昇しただけでなく、その理由として挙げられたものにも事前調査から事後調査にかけて変化が見られる。

２－２．「有用度」質問項目

Table 6 における結果より、「有用度」については事前調査と事後調査の間に有意な評定値差は見られず（$t(26)=0.00, n.s.$）、事前調査から事後調査へかけて、園外保育活動に対する有用度評定値には変化が見られないことがわかる。授業の実施前後で、園外保育活動に対して学生の感じる今後の有用度には、変化が生じないことが示された。自由記述の内容はTable 8 の通りである。

Table 8　園外保育活動に対する「有用度」質問項目の自由記述内容と記述者人数［名(%)］

自由記述内容	事前	事後
園や施設外活動に関わる事は社会人になっても経験する事だから	19(70.4)	21(77.8)

Table 8 より、園外保育活動の経験が役に立つと考える理由は、事前調査、事後調査何れにおいても「社会人になってからも同様の経験する事だから」という同一の理由であり、評定値に変化が見られないのと同様に、自由記述内容にも変化が見られないことが分かる。

２－３．「学び」質問項目

Table 6 における結果より、「学び」については事前調査と事後調査の間に有意な評定値差が見られた（$t(26)=2.53, p<.05$）。すなわち、事後調査の「学び」質問項目評定値が事前調査の同評定値よりも有意に高かった。このことから、授業の実施により園外保育活動について学べると思う気持ちが、実施前のものより高まっていることが示された。仮説(2)は支持されたといえる。自由記述の内容はTable 9 の通りである。

Table 9 園外保育活動に対する「学び」質問項目の自由記述内容別人数［名(%)］

自由記述内容	事前	事後
・広い場所で行う保育活動の進め方	13(48.1)	12(44.4)
・いろいろなこと	3(11.1)	0(0.0)
・不慣れな場所に来た時の子どもの反応	2(7.4)	7(29.6)
・日案を吟味することの大切さ	0(0.0)	9(33.3)
・活動に参加する子どもの気持ちを考えることの大切さ	0(0.0)	8(18.5)

Table 9 より、園外保育活動の実施により学べることとして「広い場所で行う保育の進め方」を挙げる学生の数は事前調査と事後調査で同程度だが、「いろいろなこと」というような漠然とした内容が挙げられたのは事前調査においてのみであった。事後調査においては、「不慣れな場所に来た時の子どもの反応」を挙げる学生が増加し、その他、日案や参加する子どもの気持ちの考慮の大切さといった具体的な内容が新たに挙げられている。Table 8 で示された、学べると思う気持ちの高まりは、授業における園外保育活動を実施することにより、園外保育活動において不慣れな場所に来た時の子どもの反応や気持ちを把握すること、日案作成をしっかり行いそれに沿った準備を進めていくことの必要性を感じたことによるものだといえよう。

２－４．「大変さ」質問項目

Table 6 における結果より、「大変さ」については事前調査と事後調査の間に有意な評定値差が見られた（$t(26)=2.84, p<.01$）。すなわち、事後調査の「大変さ」質問項目評定値が事前調査の同評定値よりも有意に高かった。このことから、授業の実施により園外保育活動に対して学生が感じる大変さが、実施前のものより高まっていることが示された。自由記述の内容はTable 10 の通りである。

Table 10　園外保育活動に対する「大変さ」質問項目の自由記述内容別人数［名(%)］

自由記述内容	事前	事後
・予想外の子どもの反応に対する対処を考慮すること	9(33.0)	12(44.4)
・保育を行う場が、子どもにどう映るか考えること	1(3.7)	7(29.6)
・どうすれば子どもに興味のある活動になるか考えること	0(0.0)	5(18.5)

Table 10 より、園外保育活動における「大変さ」として、子どもの予想外の反応への対処を考慮することを挙げた学生は事前調査、事後調査で同程度であったが、事後調査においては、保育の場が子どもにどう映

るか、どうすれば子どもに興味のある活動になるのか、といった子どもの立場に立って保育を考慮することの難しさを挙げる学生が見られるようになっている。園外保育活動に対して感じる大変さが事後調査において高まっているのは、Table 10 で示されたような点の難しさに気づいたためであると思われる。

3．「子どもが得るもの」質問項目における自由記述内容

子どもが本授業における園外保育活動に参加した際に得られるものとしてどのようなものが考えられるか、自由記述した内容をTable 11 に示す。

Table 11 「子どもが得るもの」質問項目の自由記述内容別人数［名(%)］

自由記述内容	事前	事後
新しい環境を知る、楽しむ	5(18.5)	2(7.4)
わくわくした気持ち	3(11.1)	3(11.1)
達成感	3(11.1)	3(11.1)
友だちと協力することの楽しさ	0(0.0)	2(7.4)

Table 11 より、事前調査と事後調査における自由記述内容に、大きな差は見られない。「友だちと協力することの楽しさ」が事後調査において新たに挙げられてはいるが、その学生数は２名に過ぎず、具体的な記述が増加したとはいえない。このことから、仮説(3)は支持されなかったといえる。

討論

1．園外保育共同実践型授業によりもたらされた影響について

園外保育共同実践型授業が学生に及ぼした影響について検討する。Table 1、6 より、事前調査から事後調査にかけて有意差が認められたのは、共同保育活動に対する「学び」質問項目、「大変さ」質問項目、園外活動に対する「楽しさ」質問項目、「学び」質問項目、「大変さ」質問項目における評定値であった。Table 4、5、7、9、10 より、事後調査においてより具体的な自由記述内容、より子どもの目線に立って思考している自由記述内容の増加が見られ、それらの自由記述内容の認識が有意差を生じさせたものと解釈し得る。仮説(1)、(2)は支持されたことからも、園外保育共同実践型授業の実施が、共同保育活動や園外保育活動から学ぶことが多いという「学び」の意識を高めるというプラス面での影響をもたらしたといえる。そしてそのプラス面での影響とは、異なる意見を調整してひとつのものを作り上げることや役割分担の大切さといった協同面での認識向上、慣れない場所での子どもの反応や活動に参加する子どもの気持ちを考慮する事の大切さといった子どもの心へのより細やかな配慮、日案吟味の大切さといった計画立案の重要性の認識向上などが挙げられよう。このことから、園外保育共同実践型授業の実施により、学生が保育活動における重要事項をより具体的、より明確に把握することが可能になったと思われる。反面、Table 11 より、園外保育共同実践型授業における保育実践に参加した子どもが、その保育活動に参加する事で何を得られたのかという点への配慮、考慮が十分でなかったことが指摘される。共同保育活動での保育、園外保育活動の立案、実践と、学生にとって初めてとなる経験の中であらゆる面での認識向上を図ることは難しい。しかし、保育活動が子どもを対象として行うものである以上、子どもにとって当該活動に参加する意味、意義はどのようなものか、つまり保育活動のねらいはどのようなことかという点の配慮は肝要なものである。今後もそれらについての認識向上を実現する事が課題となろう。

2．「楽しさ」、「学び」、「大変さ」の関連について

Table 1、6 より、共同保育活動、園外保育活動に対する「大変さ」質問項目評定値が、事前調査から事後調査にかけて有意に上昇している。これは、数値のみによる分析を行えば、学生が感じる「大変さ」が増す、つまり負担が増すというマイナス面での影響をもたらすものという解釈も成立する。Table 4、10 で示された内容を検討すれば、その内容が事後調査においては保育活動を実施するにあたって考慮に入れるべきものであることが認められ、「大変さ」質問項目評定値の上昇が学生の保育認識に対して、園外保育共同実践型授業における保育実践の負の影響を示すものではないと解釈されうる。そこで、その解釈の妥当性を示すために、「楽しさ」、「学び」、「大変さ」それぞれの質問項目評定値の相関関係を見ていく（Table 12, 13）。

Table 12 共同保育活動に対する質問項目間の相関係数

	楽しさ	有用度	学び	大変さ
楽しさ	－	.21	.27	.03
有用度		－	.28	.21
学び			－	.27
大変さ				－

Table 13 園外保育活動に対する質問項目間の相関係数

	楽しさ	有用度	学び	大変さ
楽しさ	−	.27	.77**	.51**
有用度		−	.30	.38
学び			−	.70**
大変さ				−

**p<.01

Table 12 においては有意な正の相関は見られなかったが、Table 13 においては、「楽しさ」質問項目評定値と「学び」質問項目評定値、「楽しさ」質問項目評定値と「大変さ」質問項目評定値、「学び」質問項目評定値と「楽しさ」質問項目評定値の間に、有意な正の相関が得られた。このことから、園外保育活動に関して、学ぶことが多いと思う学生ほど楽しさを感じ、大変だと思う学生ほど楽しさを感じ、大変だと思う学生ほど学ぶことが多いと感じている、ということが示される。従って、「大変さ」が増すことで楽しさが減少するという現象は認められず、この場合の「大変さ」質問項目評定値の上昇は、園外保育活動を実施する際の留意事項を考慮する必要性、及び具体的な留意事項を認識できるようになるが故のものであるという、プラス面での影響の結果であると解釈できよう。何らかの活動に臨む際楽しさを感じるのは、多少難易度が高く苦労を要しても、そこから自分にとって望ましいものを習得できるものがある場合であることがある。本授業に対して学生が感じたとする「楽しさ」もまた、そのような場合の「楽しさ」であることが考えられる。

まとめ

本研究において、保育者養成課程における園外保育共同実践型授業が検討された。園外保育共同実践型授業において共同保育活動、園外保育活動を実施することにより、実施前から実施後にかけて、それらについて学ぶことがあるとする評定値が上昇するだろうという仮説の検証が目的とされた。共同保育活動の経験から学ぶことが多い、共同保育活動を行うことに大変さを感じる、という評定が上昇した。また、園外保育活動に対しては、楽しさを感じる、園外保育活動の経験から学ぶことが多い、園外保育活動を行うことに大変さを感じる、という評定が上昇し、仮説(1)、(2)は支持された。更に、楽しさ、学ぶこと、大変さの内容について具体的な記述が増加したことから、園外保育共同実践活動の実施により、保育を学ぶ学生が、共同保育活動や園外保育活動を実践する際の重要事項についてのより具体的、より明確な考慮を促進したと考えられた。しかし、対象となる子どもに対して、保育活動のねらいが達成できたかという観点での考慮に実施前から実施後にかけての変化は認められず、園外保育共同実践型授業における実践活動の実施により、子どもが何を得るかという具体的記述内容が増加するという仮説(3)は支持されなかった。そのような観点についても学生がより具体的に想いを馳せることが可能となる園外保育共同実践型授業の展開が望まれる。

引用文献

1）文部科学省：幼稚園教育要領　2008　フレーベル館
2）厚生労働省：保育所保育指針　2008　フレーベル館
3）塚本久仁佳：「附属幼稚園と連携した授業の取り組み－授業への動機付けを高めるために－」，全国保育士養成協議会第48回研究大会発表論文集，2009，132-133
4）松本しのぶ，和田公子：「保育実践力を育む保育者養成プログラムの開発に向けて－幼児とかかわる実践的な学習環境づくり－」，全国保育士養成協議会第47回研究大会発表論文集，2008，236-237

SUMMARY

Yuko OHTA,
Hideo TAKAKUWA:

The Investigation about the Class of the Outside-of-Kindergarten-Common-Practice-Type-of-Early-Child-Education in the Curriculum Educating Childcare-Persons

The purpose of this study was to examine the influences of the class of the outside-of-kindergarten-common-practice-type-of-early-child-education on the study of 27 junior-college-students. The students were divided into 3 groups, the members planed and practiced outside-of-kindergarten-early-child-education. They showed more things to study from the outside-of-kindergarten-early-child-education and the common-practice-of-early-child-education after the practice than before that. The concrete descriptions about the pleasures, difficulties of the outside-of-kindergarten-early-child-education and common-practice-of-early-child-education, and things to study from the experiences of both of early-child-education increased. Therefore, it was thought that the students' concrete and clear thought about the important things in the practice of both of early-child-education was promoted.

(Uyo Gakuen College)